

島津薩摩切子書道具 天璋切子筆

2007かごしまの新特産品コンクール 県知事賞受賞



「天璋院篤姫にちなんで「天璋」と名付けられた薩摩切子の美しい筆。今回は、この気品溢れる切子筆の開発に携わった薩摩ガラス工芸デザイン室の迫田賢一さんにお話を伺いました。

なぜ薩摩切子で筆を？

もともと「島津薩摩切子復活20周年」の企画でガラスペンの試作を始めたのがきっかけです。それが社長のひらめきで筆に変わりました。筆の開発は初めてだったので不安はありましたが、書道家である尚古集成館館長をはじめ、当社に縁のある書道家や地元元の書道店の協力により、生産量日本一を誇る熊野筆とのコラボレーションが実現しました。



「天璋 切子筆」と篤姫が和宮に送った年賀状(複製)

- 大筆 平面39,900円 鱗文 45,150円
- 小筆 29,400円



迫田賢一さん

細い軸にカットをほどこす。このカットが薩摩切子独特のほかしを作る。

株式会社島津興業観光事業本部
伝統工芸部薩摩ガラス工芸
〒892-0871 鹿児島市吉野町9688-24
TEL099 (247) 2111
FAX099 (247) 8441

筆の開発ならではの難しかったことや工夫したことを教えてください。

生地を棒状に細く、均一に、しかも筆の穂先とびつたり合うように形作るのが難しかったですね。カットも、細い軸に入れるということで、シンプルな模様にして、ほかし(グラデーシオン)で薩摩切子らしさが出るように工夫しました。また、ただの飾り物でなく、使って良い物を作りたいので、書道家の方に助言をいたしたい形や重さを調整しました。

軽さを出すために中を空洞にしたことで光の加減や角度で表情が変化し、趣のある仕上がりになりました。

「天璋」と名付けたのは？

薩摩切子も熊野筆も篤姫の生きていた時代に生まれたもので、どちらも伝

統的工芸品であること、ちょうどこの筆の開発中にNHKの大河ドラマ「篤姫」の放映が決まったことから篤姫との縁を感じ、「天璋」と名付けました。

評判もいよいよいですね。

書をされる方へのプレゼントにされることが多いようです。「使い心地がよい」と、筆としての評判も上々で試行錯誤した甲斐がありました。

薩摩切子の製品を開発するときは大切にしていることは何ですか？

常に「薩摩切子らしさとは何か」を問いつつ、「伝統を守りつつ、時代に合わせて変化させる」ということをモットーにしています。

江戸末期に製造された薩摩切子の形やカットをそのまま復元した製品を作る一方で、現代の生活スタイルに合わせて使いやすく、形やデザインを変化させた製品の開発にも力を入れています。これからは、伝統に学びつつ、新しい製品作りにも挑戦していきたいです。

迫田さんの薩摩切子に対する熱い思いに触れ、職人さんがひとつひとつ手作りする様子を見てみると、今まで手の届かないものと思っていた薩摩切子を、大切に使用してみたいという思いが湧いてきました。皆さんも職人さんたちの熱い思いで作られた薩摩切子を手にとってみませんか？

PRESENTS / プレゼントコーナー

薩摩切子キーホルダー「蛸」を3名様にプレゼント

締め切り 平成20年8月29日(金)



薩摩切子キーホルダー「蛸」

○応募方法 ハガキ、FAXまたは電子メールに

①「グラフかごしま」に関するご意見・ご感想、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤年齢、⑥職業、⑦電話番号を記入の上、下記までお送りください。

●はがき宛先 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県広報課「グラフかごしまプレゼント係」

●F A X 099 (286) 2119 (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

●メールアドレス h-kikaku@pref.kagoshima.lg.jp (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

※いただいた個人情報は、プレゼント送付以外の目的には利用しません。
※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



「鹿児島ブランドショップ」(県産業会館1階)

お中元に県産品をどうぞ!

かごしま夏のギフトフェア

平成20年8月8日(金)まで

県内の特産品の問い合わせ、ご用命は

鹿児島ブランドショップへ

鹿児島県特産品協会

〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 鹿児島県産業会館内

☎099-225-6120 FAX099-223-0755

店休日 年末・年始 ●営業時間 午前9時～午後6時

東京店 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-6-4 千代田ビル3階

☎03-3506-9171 FAX03-3506-9172

ホームページURL <http://www.k-p-a.jp>

